

1.4 分析対象種の確認状況の経年比較

分析対象種の確認状況の経年比較（その1）

凡例：確認、未確認、：1～3 巡目は河川環境管理システムに調査データが未格納、4 巡目は調査未実施。対象の河川は本年度、：中止無効の河川である。

(薄字の河川は本年度とりまとめ対象外の河川である。)
注1) 1~3番目のデータは、種名等について東証化され、河川

注1) 1~3巡回のデータは、種名等について真正化され、河川環境管理システムに格納されている調査データを対象にした。
注2) 調査の件数件数の割合で、4年毎に河川の取扱い上での特徴は、1~3巡回の支流毎に、一括で定められた。

注2) 調査の継続性の觀点から、経年比較での取りまとめ対象は1級河川の直轄区間とし、指定区間および2級水系は対象外とした。

注3) 1～3巡の区分については、原則として1巡目：平成2～3年／年度、2巡目：平成8～12年度としたが、各河川の実施状況のバランスに応じて適宜区切りを調整した。各調査項目における具体的な巡目の区切りは調査実施状況の欄に記した。
注4) 特に平成11年度以前の調査ではカワハギ・シラヌイはマツバムの区別ができるなかった個体が含まれる可能性がある。

注4) 特に平成11年度以前の調査では、カツムツもしくはメマツウの区別ができなかった個体が含まれる可能性がある。

分析対象種の確認状況の経年比較（その2）

凡例 : 確認、×: 未確認、-: 1~3 巡目は河川環境管理システムに調査データが未格納、4 巡目は調査未実施

(薄字の河川は本年度とりまとめ対象外の河川である)

注1) 1~3巡目のデータは、種名等について真正化され、河川環境管理システムに格納されている調査データを対象にした

調査の継続性の観点から、経年比較の取りまとめ対象は1級河川の直轄区間とし、指定区間および2級水系は対象外とした。

注3) 1~3巡の区分については、原則として1巡目：平成2~3~7年度、2巡目：平成8~12年度、3巡目：平成13~17年度としたが、各河川の実施状況のバランスに応じて適宜区切りを調整した。各調査項目における具体的な巡目の区切りは調査実施状況の欄に記した。

注4) 特に平成11年度以前の調査では、カワムツもしくはヌマムツの区別ができるなかった個体が含まれる可能性がある。

分析対象種の確認状況の経年比較（その3）

凡例：確認、×：未確認、○：1～3巡目は河川環境管理システムに調査データが未格納、4巡目は調査未実施（東宮川は本年度よりはじめて検査対象外の河川である）

(薄字の河川は本年度とりまとめ対象外の河川である)
注1) 1~3次目のダムは、種名簿について東正化され

注1) 1~3巡目のデータは、種名等について真正化され、河川環境管理システムに格納されている調査データを対象とした。
注2) 調査への属性は、現状とおり。又、年々ヒヤリの件数は1から約2倍程度で増加しているが、必ずしも年間で増加しているとは言えない。

^{注2)} 調査の継続性の観点から、経年比較の取りまとめ対象は1級河川の直轄区間とし、指定区間および2級水系は対象外とした。

(注3) 1～3巡の区分については、原則として1巡目：平成2・3・7／年度、2巡目：平成8～12年度、3巡目：平成13～17年度としたが、各河川の実施状況のバランスに応じて適宜区切りを調整した。各調査項目における具体的な巡回の区切りは調査実施状況の欄に記した。
(注4) 特に平成11年度以前の調査では、カワムラもしくはマツムラの区別ができるなかつた個体が含まれる可能性がある。

注4) 特に平成11年度以前の調査では、カツムツもしくはメマツツの区別ができるなかった個体が含まれる可能性がある。

分析対象種の確認状況の経年比較（その4）

凡例 : 確認、× : 未確認、- : 1 ~ 3 巡目は河川環境管理システムに調査データが未格納、4 巡目は調査未実施

(薄字の河川は本年度とりまとめ対象外の河川である)

注1) 1~3 巡目のデータは、種名等について真正化され、河川環境管理システムに格納されている調査データを対象にした。

注2) 調査の継続性の観点から、経年比較の取りまとめ対象は1級河川の直轄区間とし、指定区間および2級水系は対象外とした。

注3) 1 - 3 巡の区分については、原則として1巡目：平成2・3・7年度、2巡目：平成8・12年度、3巡目：平成13-17年度としたが、各河川の実施状況のバランスに応じて適宜区切りを調整した。各調査項目における具体的な巡目の区切りは調査実施状況の欄に記した。

注4) 特に平成11年度以前の調査では、カワムツもしくはヌマムツの区別ができなかった個体が含まれる可能性がある。